

令和2年度 事業報告

(一財) 柏戸記念財団

1 営業の状況

令和2年度は新型コロナの影響により、上期を中心に売上げの減少に見舞われたが、下期には回復基調となり最終的には前期比94.2%まで回復した。

営業利益は財団全体で9百万円の赤字となったが、当初予想していた大幅な悪化は免れ経常利益では黒字となった。

(表1) 部門別の営業の状況

単位 千円

部門別	売上高			営業利益		
	令和元年度	令和2年度 (当期)	前期比	令和元年度	令和2年度 (当期)	前期比
小倉台クリニック	79,459	69,796	-9,663	-23,179	-29,803	-6,624
長洲クリニック	466,875	432,229	-34,646	-12,898	-32,906	-20,008
ポートクリニック	927,512	886,973	-40,539	105,081	88,075	-17,006
本部				-38,096	-34,683	3,413
計	1,473,846	1,388,998	-84,848	30,908	-9,317	-40,225

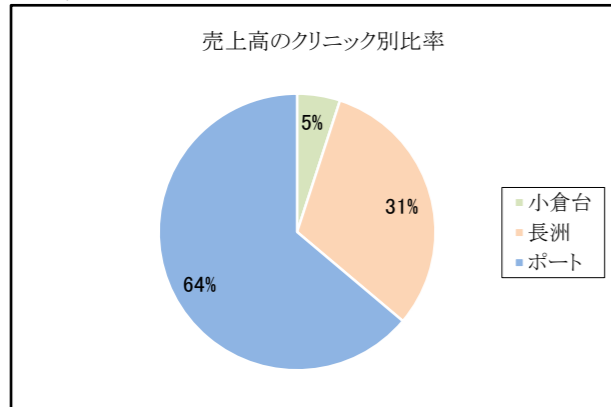
(注) 本部：総務・経理等の共通管理部門

(表2) 収益別の営業の状況

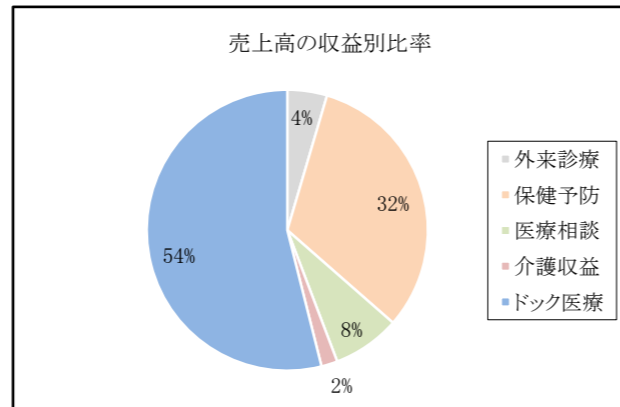
単位 千円

収益別	売上高		
	令和元年度	令和2年度 (当期)	前期比
外来診療収益	73,869	63,312	-10,557
保健予防活動収益	477,282	441,973	-35,309
医療相談収益	107,036	107,590	554
介護収益	27,416	25,825	-1,591
ドック医療相談収益	785,638	747,405	-38,233
その他	3,073	3,272	199
保険等調整	-468	-379	89
計	1,473,846	1,388,998	-84,848

グラフ1



グラフ2



2 業績の推移

売上高は新型コロナの影響により前期比84百万円の減収となり、営業利益も9百万円の赤字となった。

経常利益の段階ではコロナ関連助成金の収入29百万円もあり14百万円の黒字となった。

総資産はコロナ関連による資金繰り悪化を防ぐため銀行から770百万円借り入れたため、前期比598百万円の増加となった。

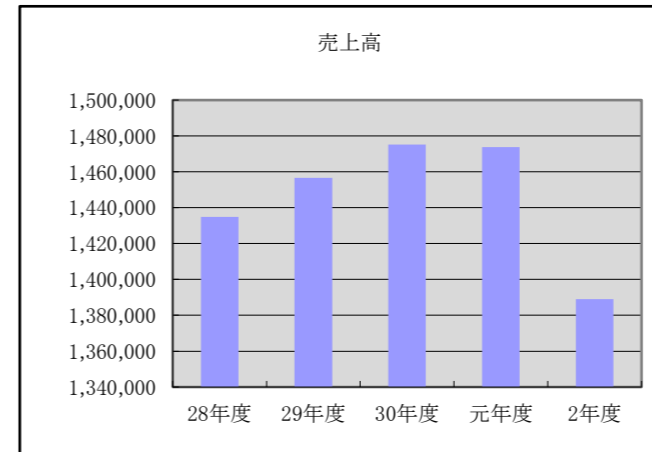
(表3) 業績推移表

単位 千円

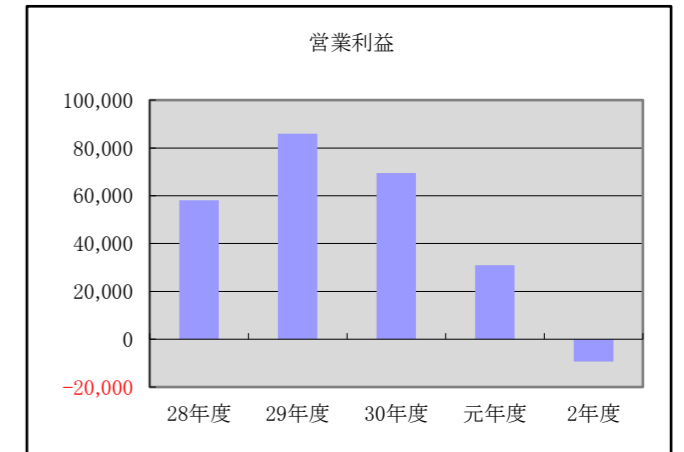
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
					(当期)
売上高	1,434,790	1,456,666	1,475,295	1,473,846	1,388,998
営業利益	58,181	86,024	69,560	30,908	-9,317
経常利益	58,214	83,207	88,580	29,331	14,242
総資産	942,645	951,492	973,429	946,175	1,544,196

(注) 平成17年度にポートサイドタワー27階に人間ドック施設を開設

グラフ3



グラフ4



3 患者数等の状況

(表4) 患者数明細

単位 人

部門別	令和元年度	令和2年度		
		(当期)	前期比	
小倉	外来患者	10,201	8,565	-1,636
	デイサービス	2,619	2,456	-163
長洲	出張健診	59,130	49,602	-9,528
	来所健診	5,331	4,886	-445
ポート	外来患者	3,347	2,910	-437
	ドック	11,356	10,486	-870
	健康診断	6,817	7,849	1,032
	協会健保	5,064	4,909	-155
	生活習慣	4,832	4,412	-420